

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質

この単元は、「2 内容」の「C 諸地域の交流・再編」の「(2)結び付くユーラシアと諸地域」に該当する。

2 単元目標

- (1) 三つのテーマ（西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大）を構造的に理解する。
- (2) 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や要因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、分析する能力を身に付ける。
- (3) ヨーロッパ封建社会での諸事象や人々の暮らしを学び、当時の人々の視点に立って、自らがどのように社会貢献できるかを考え、表現し、他者との意見を交換するなかで、現代社会をよりよく生きていく姿勢を身に付ける。

3 単元の指導計画（全体9時間）

(1) 指導計画

- ・イスラーム世界の拡大 2時間
- ・ヨーロッパ封建社会の展開 2時間
- ・中世ヨーロッパにおけるよい生き方 1時間(本時5/9)
- ・宋代の社会と文化 2時間
- ・モンゴル帝国の出現とユーラシア大交流圏 2時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・三つのテーマ（西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大）を構造的に理解しようとしている。	・諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や要因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、分析する能力を身に付けるようとしている。	・ヨーロッパ封建社会での諸事象や人々の暮らしを学び、当時の人々の視点に立って、自らがどのように社会貢献できるかを考え、表現し、他者との意見を交換する中で、現代社会をよりよく生きていく姿勢を身に付けようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「現代社会を生きる私たちが、この時代を生きる人たちから学ぶことは何か」 【学習課題】「イスラームが各地に広がっていく背景にはどのような事が考えられるか」 ・イスラーム世界の拡大	【ねらい】イスラーム諸王朝の動向と、イスラームネットワークの広がりについて理解する。	●			【知】 (B)イスラーム諸王朝とその動向について理解している。	・ワークシートの記述を基に評価する。
第2次 (2)	【学習課題】「封建社会が変化していく中で、人々にどのような変化があったか」 ・ヨーロッパ封建社会の展開	【ねらい】封建社会の中でそれぞれの立場の人々に起こった変化を多面的に捉える。		●		【思】 (B)中世西欧で起こった変化の背景にあったことを考察している。	・ワークシートの記述を基に評価する。

第3次 (1)	<p>【学習課題】 「あなたはこの時代の人から学ぶことは何か」</p> <p>・中世ヨーロッパにおけるよい生き方</p>	<p>【ねらい】他者の考えを踏まえ、自らの考えを深める。</p>		○	○	<p>【思】 (4)のア参照 【主】 (4)のイ参照</p>	・ワークシートの記述を基に評価する。
第4次 (2)	<p>【学習課題】 「宋代の政治や文化の担い手となったのは誰かだろうか」</p> <p>・宋代の社会と文化</p>	<p>【ねらい】宋代の社会と文化を理解する。</p>	●			<p>【知】 (B)東アジアの国々で独自の文化や体制を発展させる動きが広がっていることを理解している。</p>	・ワークシートの記述を基に評価する。
第7次 (2)	<p>【学習課題】 「モンゴル人がユーラシア大陸に与えた影響は何だろうか」</p> <p>・モンゴル帝国の出現とユーラシア大交流圏</p>	<p>【ねらい】モンゴル帝国がユーラシア大陸に及ぼした影響を考察する。</p>	●		○	<p>【思】 (B)遊牧国家の特徴を踏まえながら、モンゴル帝国が与えた影響を、考察している。 【主】 (4)のウ参照</p>	・ワークシートの記述を基に評価する。

(4) 評価規準

ア ワークシート1(2)の評価規準【思考・判断・表現】

中世ヨーロッパ社会において、自らが国王・教皇・商人・農民のいずれかの立場（身分）に立ってどのような社会を実現したいか表現している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・自らが当時の社会でなりたい立場と、その根拠を表現している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・自らがなりたい立場とその根拠を示しつつ、その内容が社会的貢献度の高いものや他者と協働して生きていこうとする内容になっている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・自らが当時の社会でなりたい立場と、その根拠を表現することができない→それぞれの立場が実態を確認し、社会的役割を理解するよう支援する。

イ ワークシート1(3)、(4)の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

よりよい社会を実現させる方法を主体的に追究している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・自他の考えを踏まえて方法を追究している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・自他の考えを踏まえ、異なった立場の人々と協働してよりよい社会を実現しようという視点に立って追究している。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・他者の考えを踏まえて方法を追究することができない。→自分がなぜその立場を選んだかももう一度振り返らせることで、他者の考えを踏まえて追究できるように支援する。

ウ ワークシート2の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

現代社会をよりよく生きるための方法を追究している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・この時代の人々から現代社会をよりよく生きるための方法を追究している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・この時代の人々から現代社会をよりよく生きるための方法を追究し、自らが現代社会でどのようにあるべきかを述べている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・現代社会をよりよく生きるための方法を追究できていない。→単元の学習内容を振り返り、助言する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 中世ヨーロッパを生きた人々が社会・政治・文化とどのように関わったかを考察し、理想的な社会を創造するための生き方を模索する。

イ 他者の意見を尊重し、協働しながらよりよい社会を実現しようとする姿勢を身に付ける。

(2) 本時の展開

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・担当の確認	・自分が担当する立場（身分）を確認する。	・事前にまとめた生徒の考えを集約し、グループ分けをする。生徒の希望が偏った場合はワークシートの内容を基に人数の調整を行う。
展開1	・意見記述	・自らが担当した身分でよりよく生きることができる根拠を考える。	○ワークシート1(2)の記述内容 【思考・判断・表現】
展開2	・意見共有	・同じ身分を担当した人と意見を共有した後、自らの考えをワークシートにまとめる。	○ワークシート1(3)の記述内容 【主体的に学習に取り組む態度】
展開3	・発表	・共有した意見を発表し、他の身分を担当した人に質問することで、自らの考えを深める。	
まとめ	・振り返り	・各グループに対する意見や要望をワークシートにまとめる。	○ワークシート1(4)の記述内容 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

3(4)ア、イ参照

5 成果と課題

グループで意見を共有する場面では、生徒は学習課題を自分事として捉えて議論に参加する姿を見取ることができた。ワークシート1の記述内容から、自分たちの身分や行動が、他の身分にどのような影響を与えるかを考えることができた生徒が多く、よりよい社会を形成しようとするために必要である物事を多面的に考察する姿勢を身に付ける一歩を踏み出したと考えている。

単元のまとめで行ったワークシート2では、「歴史から学んだことを現代社会でどのように活用したいか」という問いを設定した。これに対しては、自分事として考えてほしいという指導者のねらいと生徒の答えに差が出たが、今後も継続して生徒の考えが深まるよう工夫したい。

また、生徒が自ら各次の学習前に、疑問点などを挙げて学習に取り組むように計画を立てたが、指導者が当初想定していなかった視点が多々あり、指導者の単元計画にこだわることなく、生徒とともに授業を進め、単元の目標を到達するこれからの授業在り方が垣間見えた。今後も、PDCAサイクルを回し、授業改善に取り組んでいきたい。